

老朽原発 うごかすな!

ニュース

第158号

発行・老朽原発うごかすな! 実行委員会

[連絡先]
090-1965-7102



高浜町役場会議室で申し入れ

12月18日、高浜町に申し入れ まともに応えない高浜町の課長 終わってチラシの各戸配布(私は漁港に)

今回、申し入れ当日、対応した高浜町の課長は「危険性のみを強調する姿勢は町民の安心を損なう恐れがある。適切ではない」と発言。いやいやそれこそ安全神話をばらま

くことじゃないですか? あなたが安全神話をばらまくようになったら住民の安全は誰が守るのですか? 危険性を言われればそれに対してどのような安全対策を行っていくのかを関電に説明させるのがあなたの仕事であって、どっちもどっちみたいなことでは住民の安全は守れません。

申し入れに行く際、Iさんが当日の毎日新聞のコピーを配ってくれました。高浜4号機で使用予定のMOX燃料集合体16体のうち8体が燃焼度過剰のため使えないというものでした。MOX燃料が仕様通りに作れず、高コストになることはすでに指摘されています。危険じゃないですか?

課長!

私は前回の申し入れの際に、能登半島地震で多くのモニタリングポストが正常に機能しなくなったことで、高浜原発のモニタリングポストは地震があっても大丈夫なのかと質問しました。私の記憶が正しければモニタリングポストの管理は福井県と関電であって高浜町は関係ないとの回答だったと記憶します。

今回は、過酷事故が起こった時の高浜町の職員のための防護服は何着準備しているのかと質問しましたが回答はありませんでした。高浜町の予算のことであり執行済みだと思えます。過酷事故で「街頭に出なければならぬ職員数×必要日数」ぐらいの計算をしてすぐにでも回答できそうですが回答がない、ありません。そもそも論ではありませんが、私的営利企業である関電が起こした事故(過失であれ)を何で自治体の予算



まともに応えようとしぬ担当課長(写真右)

12月18日、高浜町に申し入れ あまいにも酷い担当課長の対応に 参加者が口々に怒りの抗議

12月18日、高浜町への申し入れ(「11・30原発つづけるための乾式貯蔵NO! 全国集会@高浜」において会場一致で承認されたもの)を行った。

会議室に実行委員会の参加者10名と報道機関の2名が招き入れられ、まず、申し入れを読み上げた。その後参加

(私たちの税金)で負担しないといけないのでしょうか? 申し入れののち、参加者でチラシの各戸配布に向かいました。私は音海展望台の対岸の神野浦という漁港に行きま

した。途中それほど離れていないところにモニタリングポストが2つありました。これほど近くで意味があるのかと思いました。

(城陽市 山口孝雄)

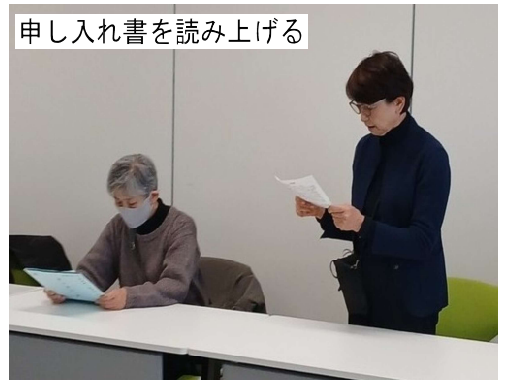
者から一言ずつ申し上げたいといったところ、「ちよっと待ってください。その前に私から一言。」と担当の防災安全課課長が切り出したのは、「11月30日、集会後のデモや、押しかけた街宣車の過激な行動に、住民から苦情が出ている。特に子どもがおびえていた。このような過激な行動は控えてほしい。」と私たちに言い放った。(この課長、以前の申し入れの際も、同じことを言っていた。)

これを受けて、参加者のほとんど全員が、この課長の発言は看過できないと抗議した。抗議を受けて、一応「表現が間違っていたかもしれない」と発言を撤回したが、そのす

ぐ後にも「あのような住民を不安にさせるような行動ではなく、このような会議室で穏やかに話し合うとかという方法を取ってもらいたい。」といったので、「どのような方法で私たちが行動するのがよいか等、あなたが指示する権利はない。憲法に定められた表現の自由に反する行為だ。」と窘めた。

10年以上、高浜町などでチラシを各戸配布しながら住民の声を聞いてきた私たちは、「原発は怖い」「特に老朽原発だけはやめてほしい」それが民意であることをよく知っている。住民の命と財産を守るのが自治体の責務であるはず。なぜ、その民意を汲み取り動かないのかと突き付けた

申し入れ書を読み上げる



が、課長の胸には届いていない。「老朽原発についてどう考えているのか」「まだこの先20年後も原発があると思ってるか」などを質問したが、彼は答えなかった。

これから、どんどん増えていくだろう右翼の妨害にも、このような自治体の言動にも、屈することなく、私たちは行動を進めていきます。(老朽原発うごかすな! 実行委員会 H)

11・30集会で高浜町への申し入れ書を決議 12月8日、申し入れをしました

去る11月30日の「原発つづけるための乾式貯蔵NO! 全国集会@高浜」では、全国から結集した約400人が「原発依存社会」に向かつて暴走する政府と関西電力(関電)を厳しく糾弾し、抗議の声を挙げました。

また、同集会では、関電が画策する使用済み核燃料の「乾式貯蔵」は、原発運転継続のための策謀であるとの観点から、原発依存の町政を進める高浜町長に下記の申し入れを行うことを決定し、12月18日に申し入れました。



申し入れ書を手渡す

なお、3〜5年後に燃料プールが満杯になる関電は、2023年10

月、いかにも近々使用済み核燃料の再処理工場への搬出が可能であるかのように

見せかけた「使用済み核燃料の県外搬出に関するロードマップ」を発表し、「搬出の円滑化のために原発構内に乾式貯蔵施設を設置する」としました。しかし、再処理工場の完成は頓挫しています。一方、関電は今までに、乾式貯蔵施設がないにも拘らず、使用済み核燃料を搬出していきます。乾式貯蔵施設はなくても、使用済み核燃料の搬出は可能なのです。乾式貯蔵施設の建設は、燃料プールに空きを作って、原発の運転継続を可能にしようとする関電の策略であることは明らかです。

以下、申し入れ書の結論部分を紹介します。

記

【1】高浜町は、東電福島原発事故、能登半島地震を目の当たりにした今、「万が一にも過酷事故を起こしてはならない原発の運転が無謀、理不尽であること」を再認識して下さい。

【2】高浜町は、危険極まりなく、行き場もない使用済み核燃料の発生源・原発に依存する町政を改める決断をして下さい。とりわけ、再処理工場の完成が27回も延期され、完成の目途も立たず、関電提出の「使用済み核燃料搬出口ロードマップ」がことごとく破綻した今、度重ねた約束「運転開始後50年を超えた超老朽原発・高浜1、2号機、もうすぐ50年超えの美浜3号機の停止」の即時履行を求めて下さい。また、トラブル続発の40年超え老朽原発・高浜3、4号機の即時廃炉を求めて下さい。

【3】高浜町は、全ての原発を停止させ、その後、今まで蓄積した使用済み核燃料の処理、処分、保管に関して真剣かつ広範な議論を開始して下さい。

【4】高浜町は、一刻も早く原発と決別し、核燃料、化石燃料を使わない「人の命と尊厳を大切にす未来」を見据えたまちづくりを進めて下さい。

2025年11月30日
「原発つづけるための乾式貯蔵NO! 全国集会@高浜」

参加者一同